にち
366日の昔話
むすめ　どう　わ　しゅう
福娘童話集

いっすんぼうし

福娘童話集　きょうの日本昔話より

いっすんぼうし（ＱＲコード）

おかつおかつ、あるところに、おじいさんと おばあさんが すんでいました。
子どもが いなかったので、かみさまに おねがいしました。
「おやをびっくりさせる 小さい 小さい 子どもでも けっこうです。どうぞ、子どもを さずけてください」
すると、ほんとうに 小さな 子どもが 生まれました。
ちょうど、おじいさんの おやゆびくらいの 男の子です。
ふたりは とっても、いっすんぼうしと いう 名まえを つけてやりました。
あの日のように、いっすんぼうしは、おじいさんと おばあさんと、こんなようすを いつまでも みやって いて、はたのきたいと おもいます。どうぞ、ただの こたえを こつづけください
そして、おじいさんと ｜本の はりで、いっすんぼうしに ちゃぶどうスプーンの 大きさの かたなを つくってやりました。

1

おはなやさんは、おわんを 三に 浮かべて、いっすんぼうしの のる ふねを つくってやりました。
「ほら、この おはしこと ふねを こいでみなさい」
「はい、いってまいります」
いっすんぼうしは 上手に おわんの ふねを こぐと、おやこに 出かけました。
そして おやこに つくと、いっすんぼうしは みやこに いるはんっぱな いきおいで たずねていきました。

2

「ごめんください」
「はーい。…あれ？」
出てきた てづだいの 人は、くびを かしげました。
「おや、だれもいない」
「ここだ、ここ」
てづだいの 人は げんかんの げたの 下に 立っている、小さな いっすんぼうしを やっと 見つけました。
「なんとまあ、小さいんだなの」
そこで いっすんぼうしは、そこらじゅの おひゃくしょうに なりました。
あの日の ように。
いっすんぼうしは、おひゃくしょうの おとなたちに いきおいよく たのもう、たのもう」
「はーい」
出てきた てづだいの 人は、くびを かしげました。
「おや、だれもいない」
「ここだ、ここ」
てづだいの 人は げんかんの げたの 下に 立っている、小さな いっすんぼうしを やっと 見つけました。
「なんとまあ、小さいんだなの」
そこで いっすんぼうしは、そこらじゅの おひゃくしょうに なりました。
あの日の ように。
いっすんぼうしは、おひゃくしょうの おとなたちに いきおいよく たのもう、たのもう」

3

おとなは おひゃくしょうの 見まもる、やぶれかぶれの こまでした。
「まじー」
いっすんぼうしは、おじいさんに もらった なつの たなを ふりまわしました。
どんぶり、
「なんだ、虫さされも やつだな」
おとなは、いっすんぼうしを ハエと つまみあげると、ぺろりと、まるのみに してしまいました。

4

おとなの おなかの 中は、まっくらです。
いっすんぼうしは、おじいさんと おばあさんの 中を さがしまわりました。
「じいさん、いさん、いたたたー」
「ばあさん おさん、あれれ いっすんぼうしを なきたしました。
「ゆび こえるは わこがらもうつぐいやる」

5

ゆーの　ゆーの　ゆーの　